

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2771300346		
法人名	医療法人 桐葉会		
事業所名	グループホームコスモスガーデン		
所在地	大阪府貝塚市森853		
自己評価作成日	平成 26年 7月 18日	評価結果市町村受理日	平成 26年 9月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosvoCd=2771300346-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 26年 8月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コスモスガーデンは、開設以来「利用者の個別性介護を大切にする」を目標に運営してきました。個人の生活習慣を守るようにし、日常生活においても就寝、起床時間などの規則はありません。介護者は疑似家族となれるように利用者の思いに寄り添いながら関係を築く努力をしています。ご家族にも、施設の行事に参加しやすいように工夫しています。また、認知症についても外部研修を含め施設内でも適宜行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療と福祉を併せて地域社会に貢献している医療法人が運営する、2ユニットのグループホームです。ホームの近くには、同法人の老人保健施設、医療機関等があり、連携した運営を進めています。設立後14年の歴史を持つ当ホームは、職員の手で清掃が行き届き、明るく広く清潔でゆったりとしています。食堂兼居間、和室、トイレ、浴室等、共有部分の設備も充実しており、利用者は安心して過ごすことができます。管理者は職員の働く環境を整えることで、利用者支援が充実すると考え、研修に力を入れて職員の声を重視した運営をしています。職員は夕食後を含め一日3回のティータイムを利用者に提供し、共に過ごすことで心が和むよう支援しています。食事はすべて手作りで、旬の食材を使っています。テーブルには、花を飾り、果物や菓子類を置いて自由に食べられるような家庭的な環境を整えています。職員は利用者が地域との交流を持ちながら、自分の力を発揮できる場を持てるよう自立支援を心がけています。職員間のチームワークが良く、利用者と職員が家族のように寄り添い、笑い声が聞こえてくるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく暮らすことが出来るよう 4 つの介護理念を確立している。 職員が行ったサービスで理念の何に当たるかカンファレンスや機会があれば話し合いをしている。	「慈愛と奉仕の精神で、医療と福祉を行い地域社会に貢献する」とした法人理念に添って、ホーム独自の介護理念を策定しています。介護理念では「私たちは1. 今までの生活リズムを守ることができる環境を提供する 2. 人のために役立っていると思うことができる環境を提供する 3. わがままを言えることができる環境を提供する 4. その人らしく生きることができる環境を提供する」と明記し、玄関等に掲示して、全職員で共有しています。職員は、理念を基本方針や行動指針として具体化し、利用者が地域の中で自分らしく暮らせるように支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スーパーへの買い出しや気候が良い日などは外への散歩などに出かけ自然な形で地域と交流するようにしている。	地域のお祭りでは、だんじりがホーム前を通るので利用者と応援しながら楽しんだり、駅前までだんじりを見に出かけ、地域の人々と自然に交流することもあります。近くの商店に買物に出かけたり、同法人他施設にある喫茶室に出かけ馴染みの関係を作ったり、同法人運営の保育園児と交流することもあります。また地域ボランティアの力を借りて、よさこい踊りやマジックショー等を楽しんでいます。	ホームでは、今後もさらに地域との交流を深めるために、地域の学校行事や老人会活動への参加等、外出レクリエーションを充実する予定です。また、近隣への散歩や買物等に出かける回数を増やし、地域との関係を深める予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地元の社協や「家族の会」の要請を受け認知症を持つ家族参加の講演会や、地域の老人会の集いに参加し、認知症の理解を働きかけたり、グループホームについて説明を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、利用者、民生委員、役所などから頂いた意見は常に前向きに検討し実施している。新規入居者の家族さんには運営推進委員会の説明をし参加を呼び掛けている。	運営推進会議の規則を定め、2ヵ月に1回、年6回の会議を開催しています。会議のメンバー構成は、利用者・家族・民生委員・地域包括支援センター職員・市職員・ホーム職員としています。最近の会議ではホームでの利用者の様子、行事内容、職員研修、事故予防、防火管理、職員交代等について報告を行い、意見交換をしています。会議で出された提案や要望等については、速やかに職員間で話し合い、ホーム運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の要望に応えられるよう、得異なる入居依頼があったときなどは積極的に市町村担当者に連絡しサービスの向上に努めている。	市職員とは、常に情報交換を行い、事業所の運営や利用者の状況について、相談をしながら進めています。また、職員が「認知症を持つ家族参加の講演会」に講師として出向いたり、地域老人会の集いで「認知症」や、「グループホーム」について説明を行ったりする際には、市職員に相談をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オープン以来身体拘束をしたことがない職員が人的環境を整え症状が緩和するよう努力している。	運営規程に「身体拘束等の禁止」を明記しており、職員には接遇研修等で徹底して周知し、「身体拘束をしない介護」を進めています。日中は、ホーム玄関を開錠して、自由に出入りできるようにしています。利用者に帰宅願望がある場合や外出希望がある場合には、職員が付き添いながら外に出て、利用者が納得されるまで支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での介護行為に対して定期的に検証しカンファレンスで、話し合っている。法人内の人権擁護研修会に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修、外部研修など積極的に参加している。家族から相談があればその都度対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前に、本人、家族に施設を見学して頂きサービスの内容、料金の説明をしたり疑問や不安などがあれば話し合い納得してから契約している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付窓口が3か所あることを説明している。また、施設内には意見箱を設置し無記名で投稿できるようにになっている。苦情を受け付けた時すぐに対応できるよう、窓口で苦情受付書類を準備している。問題点を明らかにしカンファレンス、申送りで周知している。	職員は、常に利用者と家族の意向に添った支援に努めています。利用者と家族の意向が違う場合には、話し合って双方の理解が得られるように努めています。家族の来訪時には、意向を確認し、寛げるように湯茶の接待をしています。また、何かあれば速やかに電話等で報告し、意向を確認しています。2ヵ月1回ホームだより「ガーデンの四季」を発行し、利用者の様子を写真で掲載するなどしてお知らせしています。ホーム内に意見箱を設置し、意見等が出しやすいようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全員出勤の勤務を組みその時に業務、介護ケアカンファレンスを実施している。その場では職員が自由に発言できる環境を作り、決まったことは、全員実行するようにしている。	チームリーダーは日常的に職員と対話し、課題や提案があれば聴取してホーム運営に活かしています。管理者やチームリーダーは、全職員が出席する会議を月1回開催し、職員が自由に発言して提案できる環境作りをしています。会議での決定事項は、記録に残して全職員で実行しています。管理者は、職員が働きやすい環境を整えることで、利用者支援が充実すると考え、職員の声を重視した運営をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護処遇改善に取り組み、給料水準の向上・介護用具を購入し、職場環境を整え各自が向上心を持って働けるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、法人外の研修に参加してもらっている。その後には、必ず報告書を出してもらっている。毎月1回のカンファレンスでは 司会、書記の役割が順番に回るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の特養、グループホーム、老健、支援事業所と定期的に会合の機会を持ち意見交換をしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の程度によるが、施設見学、または当ホームからサービス利用先へ出向くなどして、本人とゆっくり面談するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは見学に来た時や、相談を受けた時に、困ったり、悩んだりしていることを受け止められるよう拝聴している。私たちが援助できることを具体的に説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を聞き、必要に応じ情報を提供している。自分で対応できない時はそれぞれの専門職に協力を依頼し、サービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものを畳んだり料理をしたりと何事にも共にするという意識している。職員は疑似家族として、利用者に尊敬の念を持って接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会時、一緒に歌を歌ったり、雑談をしながら入居者との時間を楽しく過ごせるように支援している。又、近況を話しながら今後の方向性を話している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、親戚、近所の人々が面会に来た時は、入居者の疑似家族としてお茶や、お菓子でもてなし、次も来てもらえるよう対応している。	友人や知人の来訪時には、湯茶の接待をして、寛げるよう声かけしています。一度来訪されると職員や他の利用者とも馴染みになり、再々来訪される場合もあります。職員は、利用者の行きつけの商店やスーパー、美容院などを継続して利用できるよう支援することで、利用者の馴染みの関係が続くようにしています。利用者の希望があれば電話をかけたたり、手紙を出したりする支援もしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度、性差、性格、生活過程などを考慮して、かかわりがスムーズにいけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	肉体的な疾患などで、専門病院などに入院しても、面会に行ったり、必要に応じて家人と面談をし方向性を話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活や話題の中で本人のニーズを見つけだすようにしている。又、家族との会話も大切にしている。得た情報を職員間で共有、ケアプランに反映している。	職員は利用者に寄り添い、利用者が何を想い、何を希望しているのか、常に理解しようと努めています。夕食後にもティータイムを設け、職員も一緒に雑談しながら、利用者が安心して過ごせるように配慮しています。気持ちを言葉で確認する以外にも、表情やしぐさ、行動から利用者の気持ちを察して、タイミング良く対応しています。利用者一人ひとりの好きなもの、嫌いなもの、特技や趣味等を理解し、記録に残して職員間で共有して、日々の支援に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族、サービス事業所から得た情報を考慮しケアプランを作成している。 利用者の24時間の生活パターンを大切に介護サービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護スタッフは入居者の日々の状態を観察その中で、気づきや状態の変化を主治医、看護師、ケアマネを中心に情報収集し、観察項目を決定、ケアプランに反映している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別介護実施表を作成し、IADなどを観察し職員で共有している。日々観察、変更が可能な独自の介護サービス表を作ってケアに反映させている。	利用者・家族の意向を確認してサービス担当者会議を開催し、介護計画書を作成しています。個別介護実施表を基に毎月モニタリングを行い、3ヵ月に1回アセスメントをして、介護計画書の見直しをしています。また、必要時には家族と話し合い、医師、看護師とも調整して状態に合わせた見直しをしています。介護計画書は、利用者・家族に説明し、話し合って同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「個人介護サービス表」「アセスメント」「介護記録」「カードックス」を使用し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の場合、原則は家族に行ってもらうのが基本だが、キーパーソンが闘病中に、入居者に専門病院受診の必要性が出た場合など施設職員が同行し援助している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設が入居者の地元であるため、親戚、知人、友人、馴染みの方々が頻りに面会に来て下さっている。「地域資源の共働」までの取り組みは実践できていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には1回/3～4w外来主治医に、個人情報を提供し受診している。それ以外にも状態の変化があれば主治医に相談、往診、診察を受けている。専門的な治療が必要な時は、家族に連絡希望の病院を聞き対応している。	利用者・家族の意向に添った医療機関で、適切な医療が受けられるよう支援しています。利用者・家族の希望に添って外来受診をしたり、往診を受けたりしています。ホームには、同法人看護師が兼務で配置しており、利用者の状態に合わせて、適切な医療が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しているので、その都度相談し、利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時、入院先の主治医の所見、家族の意向などを等を確認し、退院後の方向性を決めている。また、医療機関と情報を交換したり、訪問したりその後の相談をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、外来主治医、看護師、ケアマネと定期的に話し合い、将来的なことを含め方向性を出している。毎日の送りやりや月1回のカンファレンスなどで全員に周知している。	急変・重度化時の対応マニュアルを作成し、利用者の入居時には、終末期の考え方と対応方法について説明をしています。利用者が重度化した場合には、家族、医師、看護師が同席して、具体的な対応方法について話し合い、今後の方針を決めています。ホームでは看取り支援は行わない方針ですが、できる限り利用者・家族の意向を尊重した対応をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、いつでも対応できるよう提示している。定期的に心肺蘇生等の研修会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の施設課の指導の下、定期的に避難訓練を年2回実施している。連絡網を作成し、警察署・消防署などとの連携を図りながら	ホームでは、災害・緊急対応マニュアル及び夜間・休日火災発生時対応マニュアルを作成し、非常災害時について研修を行っています。消防署の指導のもとに、法人・地域住民と合同で避難訓練を年1回実施し、夜間・休日時を想定した自主訓練を年1回実施しています。また、カンファレンスでの話し合いの結果、今後は毎月自主避難訓練を行う予定です。備蓄は、近くにある同法人施設で保管し、一括管理しています。	今後、非常災害時に備えて、食料や飲料水、トイレ、寒さをしのげるような備品等をフロア毎で準備してはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「指示・命令」など常日頃から全職員意識して対応している。プライバシーの保護に関しても、申送りやカンファレンスで、周知している。	ホームでは、プライバシー保護マニュアル及び個人情報保護法マニュアルを作成しています。職員は、言葉遣いや守秘義務等について、申し送りやカンファレンスで再確認をし、利用者一人ひとりの人格を尊重して、誇りやプライバシーを損ねないよう支援しています。また、接遇研修を行い、利用者への適切な支援を行うよう努めています。職員は、利用者が自由に発言できる環境を提供しています。利用者の「心情や言葉をそのまま受け入れること」を意識し、「指示や命令と感じさせるような対応を行わない」方針で、日々の支援に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護理連に掲げ実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護理念に掲げ、入居者の24時間に職員が合わせて介護サービスを提供するように周知している。職員の都合や時間で介護しないように指導している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の希望を聞き実践している。 月1回行きつけの美容院に家族と出かけている入居者が1名いる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「献立、料理、買い物、後かたづけ、洗濯」など職員と入居者が一緒にすることを心がけている。食事の際も職員が入居者の間に入り楽しい雰囲気の中で食事ができるように話題を提供している。食事介助が必要な入居者もいるので、さりげなくサポートするようにしている。	食事は、3食ホームで調理しています。献立については、利用者の希望を聞き、栄養バランスを考慮した上で、2週間ごとに作成しています。また、職員は食材の買い出しや調理、配膳等も利用者に声をかけ、一緒に行っています。食事の場面では、利用者と職員が同じテーブルを囲み、ゆったりくつろいだ雰囲気の中、会話を楽しみながら、さりげない声かけやサポートを行っています。ホームでは、10時と15時のほか、イブニングケアの一環として、19時にもティータイムを提供しています。利用者一人ひとりを対象に行う誕生日会、お花見、ホーム庭先でのバーベキュー等、利用者が食を楽しむことができるよう、職員は工夫をし、支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしている	開設時に献立の指導を木島病院の管 理栄養士から指導を受けている。又、 必要に応じて相談、指導を受けてい る。水分に関しても入居者の好みの物 をいつでも飲めるよう冷蔵庫にはジュ ース、牛乳など常備している。むせ込み が多い入居者には、ゼリー状にして提 供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛けをしている。 出来ない方もいるので、個別に航空ケ アをしている。毎週1回視界が受診、歯 科衛生士の口腔ケアも家族、本人の希 望により実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一 人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活 かして、トイレでの排泄や排泄の自立に むけた支援を行っている	尿・便意を訴えない入居者には、1回で も多くトイレで気持ち良く排泄してもらえ よう時間誘導をしている。失敗が多い 入居者には、排泄時の行動などを分析 しカンファレンス、申送りで周知してい る。見守りが必要な入居者には、必ず 付き添い本人が出来ないところをさりげ なくサポートするようにしている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パタ ーンや習慣を把握し、自尊心に配慮し ながら、さりげない声かけやトイレ誘導 をしています。ホームでは、これまでに 排泄の自立に向けて取り組んだ事例が あり、成果をあげ、家族にも喜ばれてい ます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が困難な利用者には主治医と相談し、本人に合った下剤でコントロールしている。運度や水分、食べ物も入居者の嗜好に合わせて排便しやすいように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しみで好きな入居者には、他の入居者に迷惑がかからない限り毎日一番に入浴してもらっている。又、入浴が嫌いな入居者や、便失禁した入居者に関しては、時間に関係なくその時の状況に合わせて入浴してもらっている。	ホームでは、毎日入浴ができる支援体制を整えています。一部の利用者は、ほぼ毎日入浴しています。仲の良い利用者同士と一緒に入浴する機会もあり、職員は利用者の希望やタイミングに合わせて、安心して入浴を楽しめるよう工夫しています。柚子風呂や菖蒲風呂等の季節風呂を提供し、利用者が入浴をより楽しむことができるよう、支援しています。また職員は、入浴の目的を清潔保持のみならず、感染症予防やリフレッシュ効果、穏やかに就寝するための支援と認識し、日々の支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は決めていない。一人ひとりの生活パターンに合わせてお世話をしている。日中も入居者の体力的なものも考慮し状態に合わせて休息してもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬を利用者別にカードックスに記入し変更があればその都度変更している。それを毎日の申送りに使用し全員周知している。効能や副作用も別にファイルしいつでも見る事が出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや料理参加など、家事労働に参加してもらえよう心掛けています。習字が得意な入居者には作品を掲示板に飾り皆にも見てもらえるようにしている。気分転換に法人の喫茶店に行ったり、皆で歌を歌ったりと楽しんでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候がいい日などは、庭でお茶会をしたり、法人内を散歩したりしている。帰宅要求から外に飛び出す入居者もいるが制止するのではなく付き添い見守り、状態を見て声掛け一緒に帰るようにしている。その時の状態により落ち着くまで、散歩をすることもある。買い物が好きな入居者は近所のスーパーへの買い出しに同行してもらっている。	スーパーや近隣の食品店で買物、ホーム周辺の散歩、同法人施設内の喫茶店に出かける、行きつけの美容院に出かける等を日常の外出支援としています。また、年間行事として花見やお祭り等に出かけています。日常の介護支援記録に外出の項を設け、利用者一人ひとりの外出支援を記録に残しています。ほとんどの利用者は外出の機会が多い状況ですが、一部の利用者は、外出の機会が少ない状況が見られます。	ホームでは、今後もさらに外出支援に力を入れる予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や財布を持つことで安心する入居者には、家族に許可を経て本人に持ってもらっている。法人の催し物で、家族から預かっているお金で出店で買い物をしたり法人の売店で買い物に出かけたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を時間を決め（夜間はかけない約束）持っている入居者が1名いる。あとは電話をしたいときは、公衆電話からいつでも掛けれるように支援している。又、手紙や年賀状を出せるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間していると御馳走のにおい、お茶碗を洗う音など生活雑音がきこえてくる。居間とお風呂場の境目には、「暖簾」また「レースのカーテン」などで外からの光に配慮している。居間のテーブル、トイレなどには季節の花を飾っている。	玄関周りには草花や植栽をしたり、季節の野菜を植えたり、バーベキューをしたりするスペースを用意し、利用者と楽しんでいきます。玄関は広く利用者が車イスでもゆっくり通れるスペースを設けています。食堂兼居間は十分な広さがあり、すべての壁面に手すりを付けています。食卓は大きく、利用者と職員が全員座ってもゆとりがある状況です。食卓には花を飾り、果物や菓子を置いて利用者がいつでもおやつを楽しめるようにしています。6畳の畳スペースがあり、利用者が横になって休むことができます。植栽をしてソファを置き、利用者がのんびりくつろげる場所も用意しています。トイレは広く、車イス対応になっており、浴室は家庭的で、利用者が安全に入浴できるように設備を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下と居間の間には観葉植物を置き落ち着けるようにしている。また、自由に休んだり、気の合った入居者同士でおしゃべりしたり、思い思いに過ごせるよう、居間の居間の南北にソファを置いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学の時や入居契約時に本人の馴染みの家具や使い慣れた品物などを持ってきてもらえるようお願いしている。	居室にはあらかじめ、ベッド、机、洗面設備を用意しています。利用者は、使い慣れた家具やテレビ、写真、ぬいぐるみ等を持ち込み、居心地よく過ごせるようにしています。職員は空調に配慮しながら、利用者と共に室内を清潔に保ち、利用者がゆっくり過ごせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のできることは、時間がかかっても「待つ」ことは大切にしている。又普段はできるがその時の状態でできない時もあるので、その時には、プライドを傷つけないようにお手伝いしている。入居者が自然な形で家事手伝い等に参加できるような環境作りを心がけている。		